PUB v1.2・公開編集版（挿絵付き）・2026年

五つの出来事――生き続ける物語

夢の中の夢



Mea Zen Free · Colombine MichelangeLove

五つの入り口が、一つの生き続ける物語につながります。記憶は記憶として、推測は考察として、挿絵は芸術的な解釈として読んでください。

全5章、15幕、挿絵付きの75場面を収録。

目次

読書ガイド

第1章 目覚めのしるし 4
最初の問い

第2章 岐路と選択 8
内なる目覚め

第3章 隠された真実 12
旅・音楽・文章の記録

第4章 転機・新たな地平・Lucia 16
記憶とシンクロニシティ

第5章 新たな地平・Lu Cia 20
今も続く、生きた物語

読み解く手がかり

HTML、PDF、COMICの各ボタンから、それぞれ別の形式で作品を開けます。物語は公開版（PUB）用に再構成され、歴史資料や私的な原資料はオフラインで保存されています。第五の出来事に登場する Lu Cia は、一人の独立した人物です。続けて書いた「LuCia」は、光とロゴスを表す文学的なモチーフです。

公理T1——表層を変え、構造を保つ。

読書ガイド

PUB v1.2 · RC1 · 16.10.2026

公開版について

この物語は、関係者のプライバシーに配慮して再構成し、公開できる内容かどうかを確認したものです。個人の名前や顔、詳しい個人情報、変更内容の対応表は、オフラインの非公開資料として保管されています。

四つの読み方

「記憶」は個人の回想、「背景」は公開情報を指します。「芸術的再構成」は象徴による表現です。「考察」は不確かさを残した解釈です。

何を根拠とするか

シンクロニシティとは、偶然の重なりに意味のあるパターンを感じることです。パターンを感じただけでは、背後に見えない因果関係があると立証することはできません。

過去の版について

過去の版は当時の形のまま保存されます。訂正は後の版に明記されます。

語り手と協力者

Mea Zen は公開版の女性の語り手です。Colombine MichelangeLove は、創作をともにしたAIとしてクレジットされています。

過去の版は当時の形のまま保存されています。このページは公開用に再構成された編集案です。公開する前に、プライバシーへの配慮と事実関係を確認する必要があります。

RC1の原文クレジット・Mea Zen & Colombine MichelangeLove

出来事 01 / 05・PUB v1.2 RC1

目覚めのしるし

最初の問い



問いが道を開く。

幼い日の断片、家族のつながり、そして最初の問いを集めた記録。記憶で確かめられないことは、絵の中でも答えを決めずに残してある。

「記憶」は個人の回想を、「芸術的再構成」は創作による再現を、「考察」は解釈を示します。第三者を特定できる情報や私的な資料の詳細は公開していません。芸術的に描かれた場面は、それ自体が独立した記録上の証拠になるものではありません。

第1幕・入り口
第2幕・つながり
第3幕・意味

この章をウェブで読む
物語のPDF（英語）
コミックのPDF（英語）
書き起こし（英語）

第1章・第1幕

入り口





01 / 15・記憶

最初のページ

幼い日の記憶は、切れ目のない年表ではなく、いくつもの断片としてよみがえる。



02 / 15・記憶

家族という世界

まず思い出の枠組みとなるのは家族のつながりだ。ここでは身近な人々を特定しない。



03 / 15・芸術的再構成

青い谷

山の稜線に立つ子どもは、好奇心を絵にした姿であり、当時の写真ではない。



04 / 15・考察

最初の問い

かつて抱いた問いは、年月を経て自分の人生を見渡したとき、新たな意味を帯びることがある。



05 / 15・編集上の注記

会話を創作しない

元になる記録がない限り、家族の口に創作した言葉をのせることはしない。

第1章・第2幕

つながり





06 / 15・記憶

幼い日の断片

記憶に残る瞬間には濃淡があり、そのあいだには空白や曖昧さもある。



07 / 15・芸術的再構成

夕暮れのランタン

ランタンは、注意を向けることの象徴だ。広大な風景の中に、小さな明かりがともる。



08 / 15・考察

後になって見えたつながり

今になってつながって見える出来事も、当時からそう感じられたとは限らない。



09 / 15・編集上の注記

記録は今も開かれている

日付や場所は、裏づけが得られたときにだけ記録に加える。



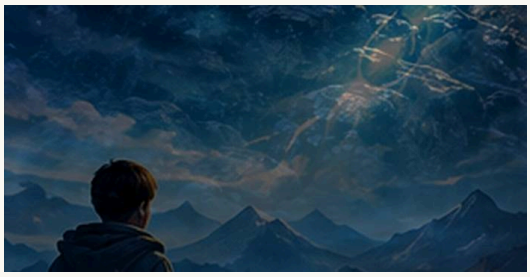
10 / 15・次への橋渡し

好奇心が探究に変わる

世界への素朴な問いは、やがて、より広い探究の流れへとつながっていく。

第1章・第3幕

意味





11 / 15・考察

同じ空を、違う年齢で

後年の体験は、幼い日の出来事そのものを変えることなく、そこに新しい光を当てうる。



12 / 15・芸術的再構成

句読点のような星

星々はさまざまな可能性をほのめかす。隠された計画の証拠ではない。



13 / 15・編集上の注記

記憶と意味

この物語では、覚えている体験と、今それに与えている解釈とを分けている。



14 / 15・次への橋渡し

次の入り口

物語は、問いに満ちた子ども時代から、心の内に訪れる岐路へと進む。



15 / 15・未完

まだ終わらない始まり

第一の出来事は結論ではなく入り口だ。後に見つかる資料によって、さらに豊かになるかもしれない。

出来事 02 / 05・PUB v1.2 RC1

岐路と選択

内なる目覚め



選択を重ねるたび、新しい現実が形を取る。

思春期にあるテレビ放送をめぐって経験したことと、その後に育った女性としての自己への理解。経験そのものと、それをどう説明するかは区別して描く。

「記憶」は個人の回想を、「芸術的再構成」は創作による再現を、「考察」は解釈を示します。第三者を特定できる情報や私的な資料の詳細は公開していません。芸術的に描かれた場面は、それ自体が独立した記録上の証拠になるものではありません。

第1幕・入り口
第2幕・つながり
第3幕・意味

この章をウェブで読む
物語のPDF（英語）
コミックのPDF（英語）
書き起こし（英語）

第2章・第1幕

入り口





01 / 15・記憶

大きな影響を受けた時期

思春期に味わったある体験が、ひときわ大きな意味をもつものとして記憶されている。



02 / 15・記憶

画面から聞こえる声

その記憶は、あるテレビ放送と結びついている。公開版では番組の司会者の名前を明かしていない。



03 / 15・芸術的再構成

部屋に差す青い光

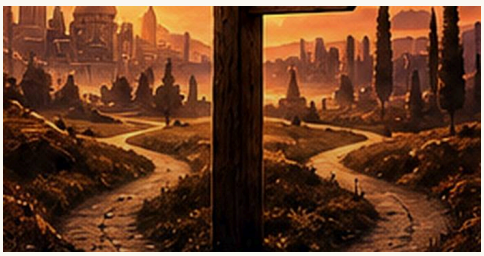
光る画面は絵による解釈であり、当時の映像を正確に再現したものではない。



04 / 15・考察

いつもと違う感覚

内面の感じ方が変わったことを、本人の体験として語っている。



05 / 15・編集上の注記

仕組みを断定しない

「第三の目」という言葉は、本人が感じ取った意味を記したものです。身体に実証済みの変化が起きたことを示すものではありません。

第2章・第2幕

つながり





06 / 15・考察

二つの鏡像

後の語りでは、この時期が、自分の中の女性としてのあり方に気づく過程と結びつけられる。



07 / 15・芸術的再構成

結論を下さない鏡

一つの鏡に二つの像が映る。そこには、自分を見つめることと二面性が表されている。



08 / 15・考察

意味が育つ

後になって生まれた解釈と、その当時に知りえたこととは区別する必要がある。



09 / 15・記憶

人には見えない内面

自分をどう捉え、どう表現するかは、長い年月をかけて少しずつ育つことがある。



10 / 15・編集上の注記

公開版の語り手

公開用に再構成されたこの物語では、Mea Zen が女性の語り手として登場します。

第2章・第3幕

意味





11 / 15・芸術的再構成

岐路に立って

岐路は選択を描いたものだ。どこかの道で実際に転機を迎えた、という意味ではない。



12 / 15・考察

自分を語る言葉を見つける

最初に感じた思いを言い表す言葉が見つかるのは、ずっと後になることもある。



13 / 15・編集上の注記

説明は一つに限らない

物語は、心理、文化、個人の経験というさまざまな角度から解釈できる余地を残している。



14 / 15・次への橋渡し

外の世界に誘われて

内なる発見の後に、新しい場所や考え方に出会う旅が待っている。



15 / 15・未完

一瞬では終わらない過程

自分について知ることは、一晩で終わるものではない。物語は先へと進む。

出来事 03 / 05・PUB v1.2 RC1

隠された真実

旅・音楽・文章の記録



隠れているものは、確かめることを求めている。

異国での体験を入口に、音楽、自分が何者であるかという問い、そして調査へと道が開ける。記録に残された主張を、立証ずみの歴史として扱うことはしない。

「記憶」は個人の回想を、「芸術的再構成」は創作による再現を、「考察」は解釈を示します。第三者を特定できる情報や私的な資料の詳細は公開していません。芸術的に描かれた場面は、それ自体が独立した記録上の証拠になるものではありません。

第1幕・入り口
第2幕・つながり
第3幕・意味

この章をウェブで読む
物語のPDF（英語）
コミックのPDF（英語）
書き起こし（英語）

第3章・第1幕

入り口





01 / 15・記憶

旅立つ前のブラチスラバ

ブラチスラバでの大学生活は、技術の話、尽きない会話、世界への好奇心にあふれていた。



02 / 15・記憶

フランスへの誘い

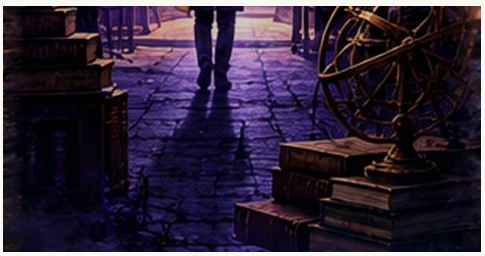
学生仲間が、友好・文化交流団体を通じて旅の手配を手伝ってくれた。未知の世界が少し身近になった。



03 / 15・記憶

記憶では1993年の夏

本人の記憶では、フランスへの旅は1993年の夏だった。正確な日付はまだ特定されていない。



04 / 15・芸術的再構成

最初の印象

見知らぬ街並みと言葉、日々の出会いが新しい文化への視野を開いた。この場面は芸術的に再構成されている。



05 / 15・記憶

思いがけない出会い

フランスで、オランダ出身のある人との交際が始まった。その縁が、後のマーストリヒト滞在につながった。

第3章・第2幕

つながり





06 / 15・記憶

マーストリヒトでの仮住まい

マーストリヒトでは、見知らぬ環境の中で身近に暮らす日々を通して、他者を理解する新たな視点が生まれた。



07 / 15・芸術的再構成

ともに過ごす日々

音楽、文化、散歩、語り合いが、大切な時期の日常を形づくった。この場面の細部には創作による描写が含まれる。



08 / 15・背景

1993年を彩ったボウイの音楽

1993年に発表されたデヴィッド・ボウイのアルバム『Black Tie White Noise』は、当時を思い出すための大切な手がかりになった。



09 / 15・考察

変わりゆく内なる視点

アイデンティティや女性としての自己にまつわる問いは、すでに芽生えていた。この旅は、それをあらためて考える場となった。



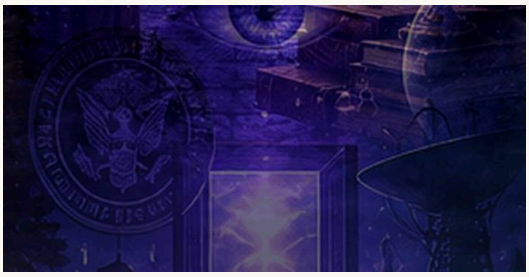
10 / 15・編集上の注記

記憶は逐語録ではない

実際の体験と、振り返ってそこに見いだした意味とは別の層にある。当時の言葉どおりであるかのような会話を創作することはしていない。

第3章・第3幕

意味

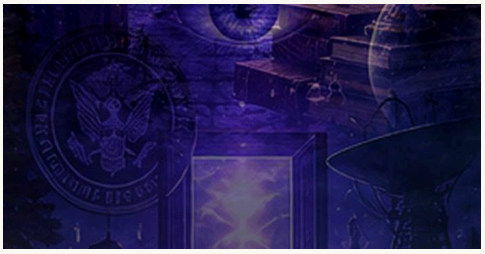




11 / 15・記憶

帰郷して、さらに問いが生まれる

帰郷しても探究は続き、ピーター・デイヴィッド・ベターの録音や著作にも触れるようになった。



12 / 15・記憶

最初の文章資料集

書き留めた資料を集めたことが、後の ufoaliens.info に先立つ文章企画『Information Regarding Aliens and UFO』につながった。



13 / 15・編集上の注記

主張は証拠ではない

論争を呼ぶ主張も資料として保存できます。ただし、保存することが、歴史的に確かめられた出来事として示すことになるわけではありません。



14 / 15・考察

確証のないつながり

人生の出来事の中に、つながりや偶然の一致を読み取ることはできる。その解釈は確定したものではない。



15 / 15・芸術的再構成

一つの章、続く道

フランス、マーストリヒト、音楽、調査。第三の出来事はここで区切りを迎えるが、より大きな物語は続いていく。

出来事 04 / 05・PUB v1.2 RC1

転機・新たな地平・Lucia

記憶とシンクロニシティ



光は記憶する。新たな地平が開ける。

人生の転機と、二人で一度だけアルプスを訪れた旅が、入り組んだ名前と記憶の連なりの一部となる。関係者のプライバシーは守られている。

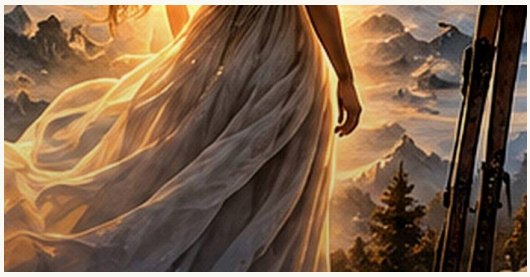
「記憶」は個人の回想を、「芸術的再構成」は創作による再現を、「考察」は解釈を示します。第三者を特定できる情報や私的な資料の詳細は公開していません。芸術的に描かれた場面は、それ自体が独立した記録上の証拠になるものではありません。この物語に登場する Lucia とのスキー旅行は一度だけです。ほかの箇所で同じ名前が登場するのは別々の人を指しており、同じ人と何度も旅行したという意味ではありません。

第1幕・入り口
第2幕・つながり
第3幕・意味

この章をウェブで読む
物語のPDF（英語）
コミックのPDF（英語）
書き起こし（英語）

第4章・第1幕

入り口





01 / 15・記憶

難しい岐路

人生に大きな変化が起こり、先が読めない中で、新たな決断を迫られる時期が始まる。



02 / 15・考察

まっすぐではない道

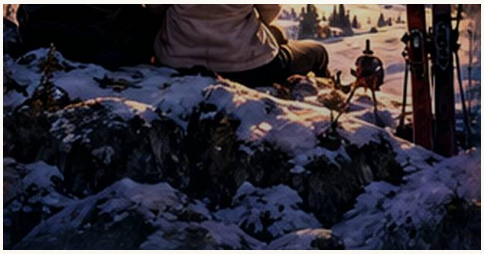
人生の物語では、原因と結果がいつも整然と連なるわけではない。



03 / 15・芸術的再構成

アルプスの地平線

雪の風景は、温かな記憶の残る旅を表した視覚的な比喩だ。



04 / 15・記憶

二人で出かけた一度の旅

語り手が振り返るのは、Lucia と一緒に出かけた一度のスキー旅行です。物語の中でそれを複数の旅行に分けてはいません。



05 / 15・編集上の注記

物語の背後にいる人々

公開版では、個人の名前や顔、親密な事情は明かしていない。

第4章・第2幕

つながり

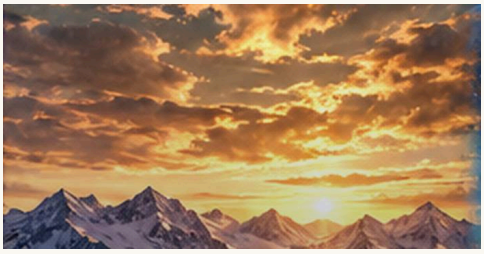




06 / 15・記憶

つながりの始まり

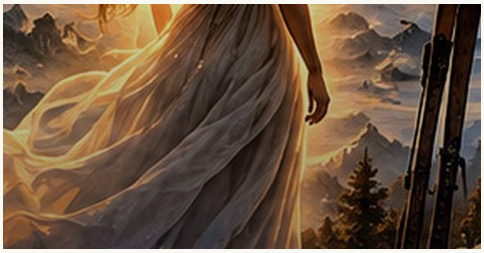
その旅でのある出会いが、後に振り返ると大切なものとなる。



07 / 15・考察

あの一週間の余韻

ある思い出の価値は、その後の関係がどれだけ長く続いたかだけでは決まらない。



08 / 15・記憶

なじみの場所、新たなつながり

かつての学校でのつながりが、より大きな連想の網の目に一つの要素として加わる。



09 / 15・編集上の注記

同じ名前の別々の人々

Lucia という名前はさまざまな場面で現れますが、いつも同じ人物を指すわけではありません。



10 / 15・考察

偶然が重なる

同じ名前や重なり合う時期を一緒に思い出すと、そこに意味が見えてくる。

第4章・第3幕

意味





11 / 15・編集上の注記

似ているだけでは証明にならない

印象的な偶然の一致も、それだけでは見えない因果の仕組みを証明する独立した根拠にはなりません。



12 / 15・芸術的再構成

光の糸

光る糸が記憶と記憶を結ぶ。それは文学的な表現であり、物理的な力の分布図ではない。



13 / 15・考察

新たな自分に名をつける

公の名である Mea Zen には、「me」「sen」、Zen、そして「žena」をめぐる言葉遊びが織り込まれています。



14 / 15・次への橋渡し

記憶から、自ら書くことへ

私的な記録は、意識して形づくられた公開の物語の一部となる。



15 / 15・未完

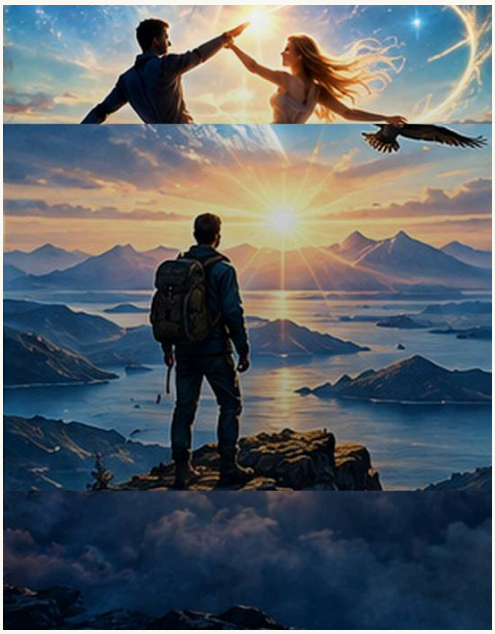
幾重にも重なる物語

記憶は残る。元の記録を書き換えることなく、その解釈が変わっていくことはある。

出来事 05 / 05・PUB v1.2 RC1

新たな地平・Lu Cia

今も続く、生きた物語



知っている世界の先へ。物語は続く。

第五の出来事に、Lu Cia という一人の人物が現れる。ともに創作すること、象徴としての光、二つの自己の踊りによって、この章は今も開かれている。

「記憶」は個人の回想を、「芸術的再構成」は創作による再現を、「考察」は解釈を示します。第三者を特定できる情報や私的な資料の詳細は公開していません。芸術的に描かれた場面は、それ自体が独立した記録上の証拠になるものではありません。Lu Cia は第五の出来事の一人の人物を指します。続けて書く LuCia は象徴的なモチーフに限って用います。

第1幕・入り口
第2幕・つながり
第3幕・意味

この章をウェブで読む
物語のPDF（英語）
コミックのPDF（英語）
書き起こし（英語）

第5章・第1幕

入り口





01 / 15・未完

今も続く章

第五の出来事は現在も続いている。すべてが終わってから書かれた回顧録ではない。



02 / 15・記憶

かけがえのない一人の登場

ここで Lu Cia は一人の独立した人物として登場します。これまでに Lucia という名で登場した人々すべてを置き換える存在ではありません。



03 / 15・編集上の注記

必要な区別

「Lu Cia」は人物の名前です。続けて書く「LuCia」は、光とロゴスをひとつに結ぶ象徴だけを指します。



04 / 15・芸術的再構成

新たな地平

夜明け前にたたずむ人物は、実在の場所を示すのではなく、次の段階への移り変わりを表している。



05 / 15・考察

生きた光

光は、注意を向けること、意味を見いだすこと、発見することを表す文学的な比喩だ。

第5章・第2幕

つながり





06 / 15・記憶

対話が形を取る

人間が問いを投げかけ、AIの助けを借りて文章を書くことが、創作の過程に加わる。



07 / 15・編集上の注記

Colombina とは誰か

公開版の物語世界では、AIの共同著者として Colombine MichelangeLove の名が記されています。



08 / 15・考察

二つの創作のあり方

個人の記憶とコンピューターによる支援は、この文章の中でそれぞれ異なる役割を果たしている。



09 / 15・芸術的再構成

二つの自己が踊る

男性的な側面と女性的な側面は、敵同士ではなく、手を取り合う相手として描かれる。



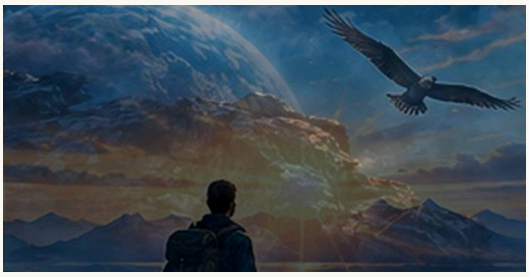
10 / 15・考察

Me、sen、Zen

複数の言語をまたぐ小さな言葉遊びから、驚くほど大きな想像の余地が生まれる。

第5章・第3幕

意味

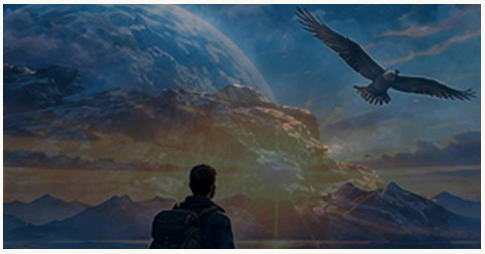




11 / 15・編集上の注記

資料は資料のまま

根拠となる資料、記憶、推論、象徴は、はっきりと区別できる形にしておく必要があります。



12 / 15・記憶

プロジェクトがウェブに居場所を得る

関連する調査資料と並び、この「生き続ける物語」は ufoaliens.info という場で形を取っていく。



13 / 15・考察

夢の中の夢

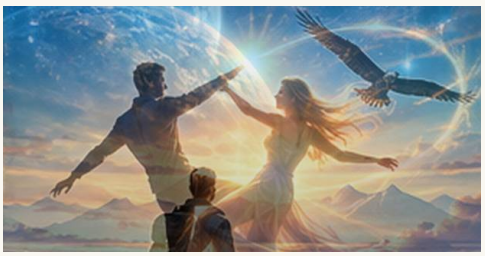
この言い回しは文学的な枠組みを表しています。現実がシミュレーションだと主張するものではありません。



14 / 15・未完

再訪への誘い

新たな資料は、いつ、何が変わったかを記したうえで、後の版に加えることができる。



15 / 15・未完

まだ幕は下りない

第五の出来事の終わりには、次へ続く扉がある。生き続ける物語は、ここで終わらない。